

要旨

アドリアンティ・アンドリニハニフ、2016、「名探偵コナン：工藤新一への挑戦状」というドラマのエピソード1～5における感情的マーカーとする終助詞の利用について、日本語学科、ブラウウィジャヤ大学、指導者：イズミ・プリハンタリ

キーワード：ドラマ、感情的な意味、語用論、終助詞

感情的な意味は様々な方法に表されることができる。日本語には、感情的な意味が終助詞の利用で表される。つまり、終助詞が感情的なマーカーとしての役目をする。本研究の目的は「名探偵コナン：工藤新一への挑戦状」というドラマのエピソード1～5における感情的なマーカーとして機能する終助詞と、この終助詞の感情的な意味を調べるという点にある。終助詞の利用は文脈を基に調べる。したがって、語用論の理論を利用する。

本研究は記述的な分析方法での定性的な研究である。記述的な分析を用いる理由は「名探偵コナン：工藤新一への挑戦状」というドラマのエピソード1～5における終助詞の感情的な意味を調べるためである。

この研究の結果は、「感情的なマーカー」とらえられる終助詞は90あった。終助詞の種類は「な」「の」「よ」「ね」「ぜ」「ぞ」「か」「もんか」「わ」「かな」「さ」である。それらの終助詞は、心配、残念、驚き、喜び、怒り、イライラ、躊躇い、悲しみ、恥ずかしい、安心、憎しみといった感情的な意味を表す。

筆者は今後の話題として、ほかの終助詞の種類や人称代名詞の分析を提案する。また、アニメや漫画などにおける感情的なマーカーの研究も良いと思う。